

## 第1回おいしい水づくり計画策定懇話会 =議事要旨=

懇話会会議次第に基づき、以下の通り議事を進行した。

(以下、第1回おいしい水づくり計画策定懇話会会議録参照)

[http://www.pref.chiba.lg.jp/suidou/oishii/konwakai\\_kekka\\_1.html](http://www.pref.chiba.lg.jp/suidou/oishii/konwakai_kekka_1.html)

### 1. 開会

○事務局より開会宣言、配布資料説明、座長・副座長の紹介

### 2. 座長、副座長挨拶

○佐々木座長挨拶

聖徳大学人文学部生活文化学科の佐々木弘子です。

キノコや市販のミネラルウォーターについて研究しています。

おいしい水についてはとても興味があるので、引き受けさせていただきました。

○町田副座長挨拶

千葉大学工学部共生応用化学科の町田基です。

大学では、地球環境問題を講義する傍ら、活性炭吸着による水質浄化などについて研究しております。今秋には、インドネシア大学との交流で、発展途上国の水質等の調査も兼ねて、ジャカルタに行く予定です。浄水については、皆さんと一緒に勉強していきたいと思えます。

### 3. 議事

主な意見・要望及び応答は以下のとおりであった。

#### 1) 水道水への意見・要望等

○安全性について

(委員)

- ・安全性への信頼が大事。悪質商法の中で、浄水器を売りつけてくるケースが多くあるが、残留塩素の呈色反応の実験を見せられ、なんとなく怪しいと思いつつも、水道水への不信感からつい買ってしまふ、というケースがある。

「水道水は安全である」ということを、利用者に積極的にPRすべき。

(事務局)

- ・水道関係者を装った詐欺的行為に関する注意等を、県水だより等により注意を呼びかけていく。

○残留塩素について

(委員)

- ・塩素の必要性をPRすべき。世間では、残留塩素を悪者扱いしているケースが多い。
- ・残留塩素濃度0.1mg/L以上という基準は、日本全国どこでも同じなのか。
- ・浄水器をとおすと、塩素が無くなって逆に危ないということはあるのか。

- ・浄水場での塩素の投入基準は。
- ・高度浄水処理した水は、通常処理より塩素が少ないのか。

(事務局)

- ・県水の残留塩素の現状は0.8mg/L程度、あまり気にならないとされる0.4mg/Lより高めとなっている。
- ・残留塩素は、水道法で0.1mg/L以上の確保が義務づけられている。(全国一律)
- ・塩素の注入量は、その時期の気温や、配水管路の末端での塩素の確保を考慮して決定している。
- ・残留塩素濃度は、時間とともに減少する。高度浄水処理を行うと、水道水中の有機物が減るので、残留塩素の減り方が遅くなる傾向があるようだ。

○おいしい水について

(委員)

- ・「おいしい水」の目標は、(極論すると)蛇口の水を0.1mg/Lに近づけることか。

(事務局)

- ・おいしい水の要件は、残留塩素以外にも色々な要素があると思うので、懇話会の皆さんの中で話し合っていたきたい。

## 2. 利き水後の感想

(委員)

- ・サンプルの水はおいしいと感じたが、いつもの水と違う感じがした。
- ・サンプル水は、冷たく感じた。(サンプルは約17℃)
- ・4サンプルの味の違いは何か。
- ・地方の水がおいしいのは、塩素が少ないからか。水源がそのものが良いためか。
- ・今回、水道水をあらためて飲んでみて「思ったよりおいしい」と感じた。

(事務局)

- ・サンプルの水は約17℃、当日の(会場である本局の)蛇口の水は約20℃で3℃程度低かったためかと思われる。
- ・水温はおいしさの重要な要素であり、15℃前後がおいしいと言われるが、夏場になると水温が27～28℃となるが、表流水のため水温制御は困難。
- ・サンプルによる味の違いは、浄水処理方法の違いや原水の違いが味の差として出ているのでは。

水 源	処 理 方 法
江戸川・利根川	一般的な処理+粉末活性炭
印旛沼・高滝ダム湖	一般的な処理+高度浄水処理(オゾン&活性炭)

- ・地方の水がおいしいと感じるのは、塩素の入れ方の違いも少しは影響していると思うが、水源の違いが大きな要素だと思われる。